

親鸞教學

真宗学の現在

親鸞教学の一指標	松原 祐善	1
真宗学の根本性格とその中心	藤原 幸章	25
課題—徳川期における行信論の反省 を手がかりとして—		
真宗学の課題と方法論について の断想	幡谷 明	42
真宗 興隆	寺川 俊昭	58
—浄土真宗における教団と教学—		
.....		
現生正定聚	本多 弘之	72
—その核心と外延—		
無神論と神信仰の問題	川崎 幸夫	92
.....		
座談会 学 と 信仰	小野 蓮明	111
—真宗学の問題点をさぐる—	鈴木 幹雄	
	古田 和弘	
インタビュー 今われらに問わ れていること	編集部	139
—安田理深先生に聞く—		

34

大谷大学真宗学会

他力眞実のむねをあかせるもろもろの聖
教は、本願を信じ、念仏をもうさば仏に
なる。そのほか、なにの学問かは往生の
要なるべきや。まことに、このことわり
にまよえらんひとは、いかにもいかにも
学問して、本願のむねをしるべきなり。

(歎 異 抄)

編集後記

禅寺の玄関に、よく「看脚下」とか「照願脚下」と記した揭示をみる。仏道は足もとにあるという警句である。日一日と深刻さの度合いを増している宗門の現況であるが、こういう時にこそ確めたいのは、自分の足もとである。自分は一体どこに立っているのか、どこへ歩まんとしているのか、と。

伝統ある大谷大学の真宗学科に因縁を結んだ殆んどの人が、その創立の母体ともいべき東本願寺の苦境を悲しまずにはいられないだろう。そして、その苦境を坐視し、紙魚のように書物の間を這いずり回っているばかりの自分の姿に、苛だちの感情を押えられぬのではあるまいか。なにか自分にはできないことはないのか。だが再考すれば、今もつとも私たちに必要なことは、外を見て苛だつ心を、逆に静かに内に転ずることではないだろうか。浮足だった気持を、もっとしっかり大地の上に立たしめねばならない。

実は、本誌が今回このような特集を組んだのは、自分たちの立脚地を静かに見詰め直すべきではないか——という空気のわだかまりを内外に感じたからである。

今号が生まれた背景には、このような願いがあろう。いま、お寄せ頂いた原稿を拝見し、あるいは座談会での諸先生の発言や安田理深先生のお話を筆録してみ、つくづく考えさせられることは、真宗学徒の使命ということである。使命感を失った真宗学は、死せる真宗学であろう。

「開かれた真宗学」とは、ここ何十年来の標語であるが、真宗学が開かれる道は、はたかの現実に触れる以外にはない。宗門の行手は厳しいが、言えることは、現実がある限り、真宗学の使命は無限に大きいということである。親鸞において、越後配流の意味が大きかったのは、この地で群萌のはたかの現実に触れたからである。親鸞の使命感は、この逆境のなかで強固になったに違いない。

編集部はこの企画のために、先生方には随分と無理な注文をお願いし、そのため色々ご迷惑をおかけしてしまった。とりわけ座談会では、問題設定の途方もなさど進行役の未熟さゆえに、出席された先生方のお気持を充分に汲み出せないうまま会を閉じなければならなかった。しかしともかくここに本誌34号を世に送り出す運びになった。諸先生の暖いご協力を心からお礼申し上げたい。(安富)

昭和54年7月1日 印刷
昭和54年7月20日 発行

親鸞教学 第34号 号 650

京都市北区小山上総町22
大谷大学真宗学会
親鸞教学編集部
発行人 寺川俊昭
大谷大学真宗学研究室 振替 京都 8225番

京都市中京区寺町通三条上ル
文栄堂書店
振替 京都 2948番

京都市下京区七条御所ノ内町50
中村印刷株式会社
電話 (313) - 0468番

編集
発行
発売
印刷

SHINRAN KYOGAKU

The Otani Journal of Shin Buddhism

Vol. 34

親 鸞 教 學

July 1979

CONTENTS

THE STATUS OF SHIN BUDDHIST STUDIES

A Criterion for Shin Studies, MATSUBARA YŪZEN

Fundamental Characteristics of Shin Studies—Through the Edo
Period Concept of Practice-Faith(行信, *gyōshin*), FUJIWARA KŌSHŌ

Thoughts on the Subject and Methodology of Shin Studies,
HATAYA AKIRA

The Rise of Shin as the True Buddhism—Shin Congregation
and Shin Doctrine, TERAKAWA SHUNSHŌ

The Concept of Right Definite Assurance in the Present Life (現
生正定聚, *genshō shōjōju*), HONDA HIROYUKI

The Problem of Faith in God in Confrontation with Atheism,
KAWASAKI YUKIO

SYMPOSIUM

Reason and Faith—Questions in Shin Studies, ONO RENMYŌ,
SUZUKI MIKIO, FURUTA KAZUHIRO, HONDA HIROYUKI

INTERVIEW

What Is Our Most Pressing Concern?, YASUDA RIJIN/EDITORIAL
STAFF

ANNUAL SUBSCRIPTION: \$ 10.00

SHINRAN KYOGAKU
THE SHIN BUDDHIST SOCIETY
OTANI UNIVERSITY
KYOTO, JAPAN

親鸞
教学

第三
四号

昭和
五十四
年七月
二十日
発行

大谷
大学
真宗
学会